

巻頭言

越後高田の雁木町家を訪れた。吹き抜けと渡り廊下のある茶の間、軒下はすっぽりと雪に埋もれてしまう冬を考慮した明かり取りの高窓、太い梁、各家の造作に合わせて作られる雁木の下は私有地である。厳しい豪雪の中、雁木下を他人に通らせ助け合う町の人の心が息づいている。「造り込み式」の雁木をもつ江戸時代後期に建てられた旧今井染物屋、旧金津憲太郎桶店を見学した。残された道具類に技術を受け継いだ職人の暮らしが垣間見えた。案内して下さった永見完治氏の生まれ育った家は長岡瞽女の泊まる瞽女宿で、子どもの頃「瞽女さんが来たよ」と触れ歩くお役目をしたこと、お風呂にいられてもらった時の瞽女の肌の白さが脳裏に焼き付いていることなど、思い出も話して下さった。

瞽女ミュージアム高田で高田瞽女の足跡をたどる。1年のうち、300日ちかくを旅から旅へ渡り歩いた瞽女、旅の途中で病や事故によって命を落とす瞽女もいたという。小川善司氏が高田の町と瞽女について説明して下さった。高田で最後の瞽女親方杉本キクイ、養女の杉本シズ、弟子の難波コトミの三人が旅巡業をやめたのが1964年である。その年の12月に杉本キクイを訪ねた画家斎藤真一は、10年にわたって瞽女の足跡を訪ね、越後瞽女日記シリーズを完成させる。その作品に魅せられた池田敏章氏は、絵画・資料を蒐集し上越市に寄贈する。1932年5月から高田を調査・研究した民俗学者市川信次の力も大きい。ミュージアムで瞽女の記録映画を見た。レコードやCDによって瞽女の哀切な語り口を偲ぶ。展示された斎藤真一作品の独特の赫の色彩、細い手と指、人生のどん底を知り尽くした瞽女の哀感を漂わせる絵に、心が震えた。瞽女をめぐる人と人の縁の不思議さ、文化を保存し継承しようとする人々の努力と熱意に打たれた。

杉本キクイさんたちが暮らした家は、間口二間で奥行きが長く雁木が施されていた。今は別の方の所有になっているが、写真の面影を残していた。

近代文化研究所紀要9月号は3本の論文を載せる。それぞれの専門性は異なるものの、今書き留めて置かなければその実態や真の姿がわからなくなっていくものを考察の対象とする。所員が多様な視点を持ち、近代文化研究の成果が発信されることを願っている。

(近代文化研究所長 鳥谷 知子)

執筆者紹介 (五十音順)

笛木 美佳 (ふえき みか) 准教授 『遠藤周作 挑発する作家』(共著) 至文堂、2008年/「遠藤周作「楽天大将」論—朝吹志乃にうかがえるグレアム・グリーン二作品の影響—」学苑 927、2018年/「遠藤周作「深い河」論—グレアム・グリーン「燃えつきた人間」の受容について—」学苑 915、2017年/「遠藤周作「深い河」論—「玉ねぎ」に秘められたもの—」遠藤周作研究 3、2010年/「『深い河』後の遠藤文学—「女」を中心に—」キリスト教文学研究 27、2010年/「遠藤文学における女性 (三)—「わたしが・棄てた・女」に流れ込んでいくもの—」学苑 819、2009年/「遠藤文学における女性 (二)—歴史小説の場合—」学苑 807、2008年/「遠藤文学における女性 (一)—その概観—」学苑 795、2007年

堀内 正昭 (ほりうち まさあき) 教授・博士 (工学) 『ブックレット 近代文化研究叢書 13 世田谷の近代住宅—和洋折衷の多様な展開—』昭和女子大学近代文化研究所、2018年/「旧近衛輜重兵大隊営内射撃場の調査報告ならびに復元的考察」(世田谷区文化財調査報告集 26)、世田谷区教育委員会、2018年/「三田演説館の建築史を紐解く」近代日本研究 32、2015年/『ブックレット 近代文化研究叢書 10 初代国会仮議事堂を復元する』昭和女子大学近代文化研究所、2014年/「広島臨時仮議事堂の平面計画ならびに議場小屋組について」(『妻木頼黄の都市と建築』所収)、日本建築学会、2014年/Die Beziehungen der Berliner Baufirma Ende & Böckmann zu Japan (Japan und Preußen 所収)、Indicium、2002年/『カラー版西洋建築様式史』(共著) 美術出版社、1995年/『18世紀の建築—バロックと新古典主義』(翻訳) 鹿島出版会、1993年/『人工楽園—19世紀の温室とウィンターガーデン』(翻訳) 鹿島出版会、1991年/『明治のお雇い建築家エンデ&ベックマン』井上書院、1989年

松田 忍 (まつだしのぶ) 准教授・博士 (文学) 「日本原水爆被害者団体協議会 (日本被団協) 関連文書の概要」学苑 935、2018年/「日本における「生活国家」論の潮流とその展開: 1930年代~1950年代」社会経済史学 83(4)、2018年/「史料紹介 鈴木莊六「西比利亜日記」(完)」(共著) 学苑 923、2017年/「史料紹介 鈴木莊六「西比利亜日記」(一)」(共著) 学苑 911、2016年/「史料紹介 安積得也「第二號栃木縣陣中口授日記」」学苑 899、2015年/『ブックレット 近代文化研究叢書 11 雑誌「生活」の六〇年: 佐藤新興生活館から日本生活協会へ』昭和女子大学近代文化研究所、2015年/「史料紹介 安積得也「第一號栃木縣陣中口授日記」」学苑 875、2013年/『系統農会と近代日本: 一九〇〇~一九四三年』勁草書房、2012年/『新生活運動と日本の戦後: 敗戦から1970年代』(共著) 日本経済評論社、2012年/「『生活』の時代、その源流 (小特集 大正一〇〇年(上))」日本歴史 769、2012年